

◆ 入場無料

一般公開講座

13:00～14:30



口呼吸の怖さを知る

～鼻呼吸になるために
口をうごかさず～

みらいクリニック 院長 今井 一彰 先生

私が、「口腔内が病悩者の生活を垣間見ることのできる窓である」ということが分かるまでかなりの時間を要しました。そして、口腔疾患が全身疾患と大きく関係しているという臨床経験を積むことによって、口腔の重要性をさらに認識することができました。

それを教えてくれたのは、「口呼吸」という言葉でした。一口に口呼吸といっても、はっきりとしないために、ここで口呼吸の定義について考えてみます。人体の呼吸には、二種類あり、細胞内呼吸と細胞外呼吸に分けられます。鼻呼吸や口呼吸は細胞外呼吸で、肺呼吸です。肺呼吸とは、呼吸吸気ともに鼻から行われるべきものですが、それを口で慢性的に代償して行う状態を口呼吸と定義してみます。さらに、呼吸吸気のどちらかが口で行われるだけでなく、習慣性開口状態による口腔粘膜乾燥も口呼吸と捉えます。いわゆる「お口ポカン」も口呼吸の一形態と考えると、その“患者予備軍”は相当数に上ります。そして、これらの弊害は、現状ではほとんど理解されていません。開口状態は、歯や顔面の形態異常のみならず様々な歯科的疾患を引き起こします。歯科診療とくに歯科矯正は、口呼吸予防、治療の一つの橋頭堡になると思っています。

狭い上あごには舌が収まる場所がありません。舌が収まる場所がないということは、低位舌を誘発し、口呼吸に繋がります。これでは上あごに接する鼻腔も狭くなってしまいますから、鼻呼吸をますます困難にします。健全な口腔を作ることが出来れば、健全な鼻呼吸を獲得することに繋がります。

口呼吸の原因は、鼻性、口腔性、習慣性と大きく三つに分けられます。それぞれに対して専門家が適切なアプローチにより治療することが望まれます。

歯や口腔も大事ですが、私たちの生活はそれだけではありません。ややもすると、歯科医療は、口腔一辺倒になってしまいがちではないでしょうか。口腔から身体を見ることも、身体から口腔を見ることも同じ診療です。一方的な見方に偏ることなく、多角的多面的に見ることが出来るよう、ともに切磋琢磨しあえる医科歯科連携を築くことが出来ればと思っています。そんなお話をいたします。

〈略歴〉
鹿児島県出身
平成7年 山口大学医学部卒業 同大学医学部救急医学講座入局
平成9年 麻生飯塚病院 総合診療科・漢方診療科
平成13年 山口大学医学部附属病院 総合診療科・助手
平成15年 (医)清仁会 林病院 内科・東洋医学専門外来
平成17年 (医)樹一会 山口病院 漢方と痛みの外来
平成18年 みらいクリニック 開設 現在に至る
日本東洋医学会認定漢方専門医
加圧トレーニングスペシャリスト

14:30～16:00



糖尿病予防は 歯医者さんへの定期通院から

～我が身と我が子孫を社会病から守るために～

にしだわたる糖尿病内科 院長 西田 互 先生

私は、内科医であり糖尿病専門医ですが、歯科治療が、歯周病はもとより、その人の将来をも大きく左右する力を持っている事を、多くの症例を通じて経験してきました。本日の講演では、「糖尿病と歯周病」という切り口から、歯科医院こそが「私達と子ども達の未来の守り人」であることを、糖尿病専門医の立場からお伝えさせていただきます。

「炎症を通じて歯周病と糖尿病がつながっている」という事実は、一般市民はもちろん、医科の間でもそれほど認知されていないように感じます。私自身、8年前に歯科の先生方に出会うまでは、口腔内にほとんど興味はなく、口の中を診察した際に扁桃は見て、歯や舌に関しては全く意識することがありませんでした。“視れども見えず”の状態にあった訳です。

しかし、「口腔は全身の窓である」ことを意識して診察するようになると、実に多くのことが見えて参りました。講演の前半では、口腔感染症が命に関わるほどの重大な事態を招いたり、歯周治療がインスリンにも勝る劇的な効果をもたらす得ることをご紹介いたします。

講演後半においては、糖尿病の概念をより広げた“糖代謝異常”について、お話しします。糖尿病は、今や成人の4～5人に1人が発症する国民病ですが、多くの人々は他人事で終わっているようです。しかし、同じ国、同じ時代、同じ社会に生きている限り、老いも若きも糖尿病の運命から逃れることはできません。たとえ今は糖尿病でなくとも、5年、10年の後には糖尿病の魔の手が迫ってくるかもしれないし、その手は若者や子ども達に及びつつあります。たとえば、妊婦さんに関しては、今や8人に1人が妊娠糖尿病の可能性があるとされていますし、香川県が行った小学4年生対象の成人病検診では、1割以上の子ども達がメタボ成人に匹敵する高血糖状態にあることが明らかになっています。

かけがえのない次世代を守るためには、糖尿病だけに固執するのではなく、より大きな概念である糖代謝異常を理解し、“未病”の人々にアプローチする必要があります。しかし、誠に残念なことに私達医科の間は、糖尿病の診断がついた患者さんにしか、介入することができません。一方で、歯科医院には未病の状態にある糖代謝異常の方々が、こども達も含め、たくさんいらっしゃいます。

歯科医院におけるむし歯と歯周病の治療、そして歯科ならではの「食事・捕食・咀嚼指導」は、将来やって来るであろう糖尿病発症の運命から、目の前の人々を救うことにつながります。子ども達の未来、ひいてはこの国の未来を守ることができる場所は、歯科医院において他にはないでしょう。

〈略歴〉
広島県出身
昭和63年 愛媛大学医学部卒業
平成5年 愛媛大学大学院医学系研究科修了(医学博士)
平成6年 愛媛大学医学部・第二内科 助手
平成9年 大阪大学大学院医学系研究科・神経生化学 助手
平成14年 愛媛大学医学部附属病院・臨床検査医学(糖尿病内科) 助手
平成20年 愛媛大学大学院医学系研究科・分子遺伝制御内科学(糖尿病内科) 特任講師
平成24年 にしだわたる糖尿病内科 開院 現在に至る
糖尿病専門医、医学博士

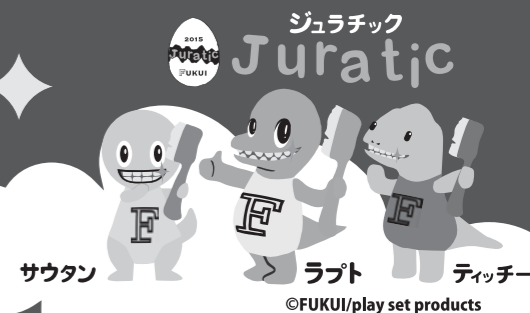
はみがきは たのしい時間 白くなれ

第25回 福井県 歯科保健大会

平成29年10月22日(日)

フェニックス・プラザ

〒910-0018 福井県福井市田原1丁目13-6



主催 福井県・(一社)福井県歯科医師会・福井県学校保健会・福井新聞社
後援 福井県教育委員会・福井県市町教育委員会連絡協議会・(一社)福井県歯科衛生士会・(一社)福井県歯科技工士会・(福)福井県社会福祉協議会・(公社)福井県栄養士会・福井県PTA連合会・(一財)福井県老人クラブ連合会・(一社)福井県身体障害者福祉連合会・福井県心身障害児者福祉団体連合会・福井県食生活改善推進員連絡協議会

表彰式・活動発表

13:30～15:00

1 開 会

2 あいさつ 福井県健康福祉部長

一般社団法人 福井県歯科医師会長

3 表 彰 式

親と子のよい歯のコンクール

高齢者よい歯のコンクール

公益財団法人8020推進財団理事長賞

健康な歯づくりに関するおえかき、
図画・ポスターコンクール

健康な歯づくりに関する標語コンクール

歯科保健優秀指導者

歯科保健優良企業

よい歯の健康づくり推進学校

歯みがき名人優秀活動

4 祝 辞 福井県議会議長

5 歯みがき名人活動発表

勝山市立野向小学校

主体的に取り組む委員会活動

～「やってみたい」を生かした歯の取り組み～

6 閉 会

受賞者

親と子のよい歯のコンクール

■ 知事賞

(親) 油田 博嗣 (子) 油田 直哉

高齢者よい歯のコンクール

■ 知事賞

堂野 寅男 越前市

■ 福井県歯科医師会 会長賞

若泉 定子 越前市

西出 俊雄 越前市

公益財団法人8020推進財団理事長賞

井上 節子 小浜市 小林 誠 越前市

帰山 利英 越前市 田中 武雄 越前市

山本 春實 敦賀市 山本 重夫 池田町

梅田むね子 越前市 山崎 谷間 鯖江市

林 繁雄 越前市 山村 勝 鯖江市

健康な歯づくりに関するおえかき、 図画・ポスターコンクール

■ 知事賞

おえかき 認定こども園インゼル保育園(福井市) かわばた りな

図画ポスター 福井市羽生小学校2年 半原 朔太郎

■ 福井県教育委員会賞

おえかき 芦原こども園(あわら市) さわべ あお

図画ポスター 坂井市立平草小学校6年 山崎 ひまり

■ 福井県歯科医師会 会長賞

おえかき いちひめこども園(あわら市) ますた そうご

図画ポスター 勝山市立成器南小学校2年 中村 莉子

■ 日本学校歯科医会賞

低学年 永平寺町立松岡小学校2年 吉田 みなみ

高学年 小浜市立雲浜小学校4年 濱詰 仁澄

健康な歯づくりに関する標語コンクール

■ 最優秀作品

「歯みがきを こつこつ毎日 むし歯^{ゼロ}0」
立花 正淳 敦賀市

歯科保健優秀指導者

■ 優秀指導者

一般社団法人福井県歯科衛生士会
川端 登代美

歯科保健優良企業

■ 優良企業

オリオン電機株式会社 越前市

よい歯の健康づくり推進学校

■ 知事賞

越前町立織田小学校

■ 福井県教育委員会賞

坂井市立坂井中学校

■ 福井県歯科医師会賞

越前市国高小学校

■ 福井県学校保健会賞

南越前町立河野小学校

■ 福井新聞社賞

大野市有終東小学校

歯みがき名人優秀活動

■ 最優秀賞

勝山市立野向小学校

■ 優秀賞

越前町立常磐小学校

南越前町立湯尾小学校

小浜市立雲浜小学校

越前市味真野小学校

